

令和2年度 施政方針

令和2年3月定例会市議会の開会に当たり、令和2年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

(災害からの復興に向けて)

昨年10月12日大型で強い勢力のまま日本に上陸した台風第19号は、関東甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり甚大な被害をもたらしました。飯山市においては、千曲川飯山観測所において過去最高の11.1メートルまで水位が上昇し、千曲川沿いの市内各所で浸水被害が発生しました。特に市街地では、同13日未明北町地籍の皿川堤防の決壊により、広範囲に浸水し、多くの住宅、商店、事務所、農地のほか、市役所、雨水排水ポンプ場など行政インフラにも被害がおよびました。

市では、まず早急に道路上に堆積した土砂の撤去をはじめ、被災家財やゴミの搬出に取り組む必要がありましたが、当初の予想よりも迅速に復旧活動が進んだ背景には、災害時応援協定都市や近隣・県内市町村、県の支援といった外からの行政支援のほか、市内の各種関係団体（建設業協会、社会福祉協議会、商工会議所など）との復旧連携が迅速に図れたことがあります。

建設業協会は、災害時における応急対策業務に関する協定により、被災直後から協会の動員体制を整え、自社事業より優先して、機械力を発揮した復旧作業に取り組んでいただきました。社会福祉協議会が即座にボランティアセンターを立ち上げたことにより、ボランティアの応援体制が迅速に整備され、また、商工会議所は、被災後すぐに県に経済支援の要請を行い、国県からの支援の道を開きました。

災害復旧は「行政の仕事」だと、これを市行政だけで取り組んでいたら、まだまだ先の見えない現場での復旧作業が続いていることでしょう。

日本全体で人口減少が進行し、地方再生、地方創生が叫ばれる時代にあって、改めて住民、団体、企業、行政のあり方が問われています。

今回の災害復旧において、市の各種団体が、迅速に一体的に取り組めたのは、何よりも自分たちとしての「当事者意識」があったことによるものと思います。他人事ではない。自分たちの問題として「課題解決」に取り組んだ「当事者」としての「共通意識」があったことによるものと考えます。

住民、また住民組織にあっては、「自助」、「共助」と言われますが、それぞれ、また「当事者」として、自らの防災能力を一層高めていくことが課題です。

新年度は、「デジタル防災無線」が整備されますが、こうした行政のハード整備に加え、減災・防災のためには、住民サイドによる「集落防災マップの作成」など「自助」、「共助」のソフト対策の取組が不可欠であり、新年度は連携をして対策を進めて参ります。

(国、県の状況)

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等を申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

1月20日に閣議決定された「令和2年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」では、総合経済対策を円滑かつ着実に実施するなどの政策効果もあいまって、雇用・所得環境の改善が続き、経済の好循環が進展し、内需を中心とした景気回復と需給が引き締まる中で、実質GDP成長率は1.4%程度、名目GDP成長率は2.1%程度、消費者物価は0.8%程度上昇すると見込まれております。

国の新年度予算案は、消費税引上げによる経済への影響緩和の措置分を含め102兆6,580億円、前年度当初と比べ1兆2,009億円、1.2%増の予算規模となったところです。「新経済・財政再生計画」の下、歳出では、全世代型の社会保障制度の構築に向け、消費税増収分を活用した高等教育の無償化、予防・健康づくりの取り組みなど医療・介護分野の充実を図り、社会保障関係費を1兆7,302億円増額の35兆8,608億円とする一方、歳入では税収を1兆180億円増額の63兆5,130億円と見込んでおります。

また、新規国債発行額は前年度から1,043億円減額の32兆5,562億円とし、公債依存度は31.7%と前年度当初と比較すると0.5ポイント減少しております。しかしながら、令和2年度末の公債残高の見込みは約906兆円、国民1人当たりでは約723万円と見込まれ、借金が増加している状況に変わりはないところでございます。

長野県にあっては、台風第19号災害からの復旧・復興とその教訓を活かした災害に強い県土づくり、気候非常事態宣言を踏まえた取組に重点を置くとともに、しあわせ信州創造プラン2.0を着実に推進するべく、「命を守る県づくり」「将来世代を応援する県づくり」「時代の変化に即応した産業・地域づくり」を視点とした予算編成となっております。一般会計予算総額は、9,477億円、前年度比617億円、7.0%の大幅な増額となっており、うち、台風第19号災害対応分が491億円となっております。

このような状況の下、飯山市における財政は、災害対応への基金繰入等により大変厳しい状況にありますが、新年度におきましては、災害の復旧・復興を第一義とし、第5次総合計画後期基本計画を着実に推進するとともに、第6次行財政改革大綱の確実な実施により、持続可能な行政経営体制と財政構造を構築する改革を進めてまいります。

市民各位、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

(令和2年度予算概要と重点的施策)

それでは、新年度予算の特徴と、施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で144億6千万円、前年度比3億8千万円、2.7%の増であります。歳入につきましては、市税を前年度比6千万円、2.5%減の23億4千万円、地方交付税を前年度比1億7千万円3.4%増の51億2千万円を計上し、ふるさと納税などの基金の活用、市債等で歳入確保をいたしました。

歳出につきましては、被災者への継続的な支援や復興に向けたまちづくりを第一とし、移住人口・若者の定住人口増、北陸新幹線飯山駅を活用した観光交流人口増を重点施策として予算の配分を行ったところです。

以下、新年度の重点施策に関わる事業についてご説明申し上げます。

一つ目として、災害復旧・復興と防災・減災対策についてです。

令和2年を「復興元年」と位置づけ、被災インフラの復旧とともに商工業や農業に一刻も早く活気が戻るよう、国、県の支援制度や市独自の施策を活用し、早期の災害復興を図ってまいります。

被災された方々が、被災後それぞれの環境の中で安心した日常生活を営むことができるよう、日常生活上の相談や孤立防止等のための支援を行うとともに、被災者を関係支援機関へつなぐなどの支援を行う「飯山市生活支援・地域ささえあいセンター」を引き続き開設してまいります。

被災住宅応急修理事業、被災家屋撤去事業につきましても、受付窓口を開設し、引き続き被災者の支援を推進してまいります。

多くの商店や事業所の被災、多くの農地の土砂堆積や農機具の水没などの被害に対しましては、令和元年度においてお認めいただいた予算を繰り越させていただき、国・県そして市が一丸となって経済復興対策を進めてまいります。

今回の災害により浸水した城山雨水排水ポンプ場につきましては、浸水を防ぐための改築や耐震化を実施してまいります。

災害時の迅速かつ確実な情報の収集や多様な手段で市民の皆様へ情報伝達できるように、令和元年度から整備しております新防災行政無線システムにつきましては、新年度において各戸へ順次受信機を設置するなど、2か年にわたる事業を早期に完了させるよう進めてまいります。

地域に根ざした防災組織である自主防災会について、意識の高揚、情報の提供、共有など機能の強化を図り、集落の防災マップの作成などにより、日ごろから幅広い防災体制の充実を図れるよう支援してまいります。

また、今後の万が一の災害に備え、発電機、ストーブなどの避難所設備や毛布、食料などの備蓄物資の充実を図ってまいります。

二つ目として、観光振興と交流人口の増加についてです。

新幹線は飯山市にとって多様なインパクトを与え続けるインフラであります。新幹線飯山駅が開業以来、特に冬のインバウンドのお客様が増えており、スキーシーズンに大勢の外国人旅行者が飯山駅に降り立つ姿は、冬の風物詩ともいえる光景となりましたが、グリーンシーズンにおける誘客は、未だこのエリアの課題であることに変わりありません。恵まれた豊かな自然環境を活かした多様なアクティビティプログラムと健康や食とリンクしたツアー商品を造成する必要があります。

新年度では自転車を活用した観光の推進、インバウンド需要の増加を見据え、ツアーに帯同するバスを配備し、環境整備を図ってまいります。

森林セラピーを中心としたヘルスツーリズムを引き続き推進するとともに、このエリアでの森林療法や脳ツーリズムといった新しい取組への支援も行ってまいります。

令和3年2月には、飯山市において第70回全国高等学校総合スキー体育大会が開催され、全国から大勢の選手、関係者にお越しいただきます。このエリアや人が持つポテンシャルの高さを十分に発揮し、今後の交流人口の拡大につながるよう新年度においても開催に向けた整備と準備を進めてまいります。

交流人口の拡大に向けた基盤整備として、道の駅「花の駅千曲川」につきましては、引き続き駐車場整備を行い、農産物直売所の拡大及び自転車や川を活かしたアウトドアアクティビティの拠点化を推進してまいります。

また、屋内運動場の人工芝化を行い、利用者の利便性を高め、施設利用の多様化を図ってまいります。

三つ目は、移住・定住施策についてです。

若者が定住し、地域を支え、子どもを産み育てていける環境にあることが飯山市の持続的発展に不可欠であります。

新年度におきましては、市内在住の若者夫婦や子育て世代を応援する定住支援施策を一層拡充してまいります。

高齢化や景気の低迷などにより市内の空き家が増加しており、これらを解消する観点からも、定住の際の中古住宅の購入・改修についても補助対象といたします。さらに、住宅新築や中古住宅購入等の場合における補助要件を、

親の住居との距離が1 km以内となっていたものを飯山市内であれば対象にすることとし、親との同居以外で子が市内に定住する場合についても支援の対象といたします。また、引き続き、若者の市内での生活を応援するため、市内企業に就職する新卒者の奨学金返済の補助やJR飯山線による通勤や新幹線通勤に対する補助を行ってまいります。

若者世代に向けた移住・定住の促進を引き続き図るため、新たに移住定住促進住宅として、市営住宅金山団地の跡地に1棟8戸の集合住宅の整備を行うとともに、若者住宅として上倉地籍に1棟2戸の集合住宅を、木島地区上新田地籍に3戸、長峰公園住宅地に1戸の戸建て住宅を整備いたします。

移住推進については、セミナー・相談会の首都圏での開催を増やすとともに、新規に大阪でも開催するなど、移住を検討されている方への情報発信を更に拡充して行い、また、セミナー、相談会に参加いただき、空き家物件の内覧やお試し暮らし制度の利用等のために、飯山市にお越しいただく方の交通費に対する助成を行うなど、Iターン・Uターンの促進を引き続き図ってまいります。

以上、新年度の重点施策の概要を申し上げましたが、その他の主な施策は、後期基本計画の施策体系に合わせてご説明申し上げます。

(そのほか主な施策 後期基本計画施策体系により分類)

一つ目は、自然共生による新しい価値観の発信についてです。

大都市で決して手に入れることのできない四季の美しさ、厳しくも豊かな自然は飯山市にとって最も貴重な資源です。産業・組織・人・地域といった様々な分野における連携を通じ、豊かな自然に恵まれた飯山市ならではの素材や資源を活用し、飯山市の魅力向上と産業の振興を図ってまいります。

自然との共生に向け、「克雪・利雪・自然エネルギー」については、雪下ろしに係る労力の軽減や転落事故等の防止のため、住宅屋根の融雪化や落雪化工事や命綱アンカー設置に対する補助申請の増加が見込まれることから予算を増額し、雪国での暮らしの安全の確保と負担軽減を図ってまいります。

また、新たな産業の創出につながる可能性がある水や雪等のエネルギーの利活用において、新年度では雪室を活用した商品開発の研究をさらに進めてまいります。

二つ目は、飯山の四季の美しさを活用したまちづくりについてです。

北陸新幹線飯山駅開業から5年目が経過します。「開業から10年で新幹線駅の存在価値や資産価値が決まる」とも言われており、この先の数年間が「新幹線駅開業都市」としての位置づけが決まる大変重要な時期となります。

人口減少や社会情勢が常に変化するなか、持続可能なコミュニティの形成と都市構造の構築が求められており、今年の台風第19号災害で市街地が被災したことにより実施するリスク調査の結果を踏まえ、都市計画マスタープランの見直しと立地適正化計画を策定してまいります。

飯山駅周辺における公共用地等の活用、開発について、民間と連携する「公民連携（PPP）」を中心に推進してまいります。

生活排水の適正処理による生活環境の保全を図るため、下水道終末処理場の耐震診断結果に基づいた実施設計を行うとともに、下水道経営戦略に基づく農業集落排水施設の公共下水道への統合などにより、引き続き施設整備の最適化を図ってまいります。

三つ目は、高速交通網による交流の促進についてです。

春夏秋冬を通じて楽しめる広域観光エリアの形成を目指し、地域一体となった広域連携をさらに強化することにより、北陸新幹線飯山駅の開業効果を最大限に活かした、エリア全体の魅力の向上を図ってまいります。

近年、旅先でのランニングやトレイル、サイクリングなど、豊かな自然の中でスポーツや余暇を過ごす旅行が盛んになっております。

インバウンド等の拡大を図る新たな切り口として、多彩な自然資源と食、アクティビティなどあらゆるものと連携した、魅力的な誘客のためのメニューの開発を推進してまいります。

四つ目は、地域産業おこしと若者定住についてです。

自然に育まれた様々な素材や資源を活かせる産業の活性化を図ってまいります。

ブランド力の向上、人材育成や地域の資源を活用した起業家に対する支援等を通じて、飯山市にある素材や資源を卓越した技によって磨き、その価値を最大限に高める取り組みを進めます。

農業振興としては、新年度において、米のブランド化に向けた取り組みを強化し、推進するとともに、高齢化や後継者不足に対応するため新規就農者や親元就農者への支援など拡充してまいります。

商工業振興としては、商店街の活性化や魅力向上に向け、団体や事業者等の活動への支援の継続と充実を図ってまいります。引き続き、長野県立大学との連携による起業支援や職人技能後継者の育成支援を進めるほか、飯山仏壇の新価値創造による産業振興を図る取り組みの支援を行ってまいります。

また、昨今の少子化の要因の一つに未婚化と晩婚化があり、独身男女の出会いの場の創出を図ることが必要となっていることから、結婚相談所の開設などさわやか婚活応援事業を拡充して推進してまいります。

五つ目は、たくましさや郷土愛を育てる教育についてです。

子どもたちが将来自分の道を自由に選択するためには、学力・体力と国際感覚、ICTなど新しい時代に生きる力を身につけることが必要です。

引き続き、小中学校へのタブレットPCの整備を進め、ICT教育の推進を図るとともに、AI、IoT時代に対応するため、STEM教育によるプログラミング教育を進め、グローバルに活躍できる児童・生徒の育成を推進してまいります。

飯山市には祭りや寺社などに代表される文化遺産が数多く残されており、飯山市独自の風土を形成しております。独自の地域文化を継承し、文化財を保護するとともに、地域社会の活性化や魅力ある観光資源として活用するため、新年度から令和3年度にかけて行われる小菅神社護摩堂修理工事を支援してまいります。

生涯学習については、人づくり・地域づくりの観点からも重要な場となっています。推進体制を更に整えるとともに、開館以来非常に大勢の皆様にご活用いただいている「なちゅら」をはじめとする各施設における、市民の芸術文化やにぎわい・交流活動を一層促進してまいります。

老朽化する施設等につきましては、新年度では城南中学校体育館の屋根改修など、現状や課題を整理しながら計画的に整備等を進めてまいります。

六つ目は、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちについてです。

全国的に少子高齢化が続く中、いつまでも健康で安心して暮らせることは社会全体の願いです。子どもを産み育てられる環境づくり、年代に応じた健康づくりや介護予防とともに、防災対策も備えを万全なものとするよう取り組んでまいります。

北信広域連合が行う千曲荘に代わる老人ホーム建設整備や認知症対応型グループホーム建設整備を支援するとともに、ひとり暮らし高齢者等の安否確認や家庭内事故等に迅速に対応できる見守り支援システムの利用対象者を拡大するなど、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを推進してまいります。

少子化が進行する一方で、子育てに係る経済負担や子育てへの不安感が高まっています。国の幼児教育・保育の無償化に合わせ、副食費の無償化など保護者の負担軽減を図るほか、多様化する保育ニーズに対応するため、しろやま保育園の改修工事など保育環境の整備も進めてまいります。

高齢化を背景に健康に対する関心も高まっており、健康は、疾病予防や介護予防、医療給付費を含めた社会保障費の抑制などにつながります。新年度では、後期高齢者の人間ドック補助の拡充により、健康寿命の延伸と利用者の負担軽減を図ってまいります。

また、農・福連携推進事業（プロジェクトいいやま）により、平成28年度から農業と福祉が連携した障害者就労継続A型事業所が開設され、事業展開をしております。新年度では、枝豆収穫機や選別機に対する補助を行うなど、引き続き、障がい者の自立促進及び農地の有効活用に向けた支援を行ってまいります。「農・商・工」の連携だけでなく、創業・起業者や商品開発に対する支援、地域事業者との連携などを引き続き図ってまいります。

情報発信についても、ケーブルテレビ、インターネット機器の計画的な更新を行うとともに、4K放送に対応する整備やインターネット使用料の見直しを図りサービスの向上を進めてまいります。

少子高齢化と人口減少が進むなか、持続可能な行政の果たす役割も適切な見直しが必要となります。第6次行財政改革大綱の実践による、効率的で質の高い行政運営に努めてまいります。

また、全国からご協力をいただいております、ふるさと寄付金事業についても、新年度において7億5千万円の寄付金を見込んでいるところです。市内の特産品等の活性化にも大きく寄与することから、市内団体・企業・事業者等の経済振興対策と市財政の安定化に向けて、引き続き事業の推進を図ってまいります。

以上、施策の概要について申し上げました。

最後になりますが、先に申し上げたとおり、新年度は、飯山市第5次総合計画後期基本計画の3年目となります。中間年であることから、計画の進捗と課題の整理を行い、計画のテーマ「北陸新幹線飯山駅を活用した観光交流人口の増、地域産業の創出と育成、そして移住人口、若者の定住人口増へ」の実現を目指し、全力で取り組んでまいり所存でありますので、市民の皆様の一層のご協力をお願いするとともに、議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、所信表明と致します。

令和 2 年 2 月

飯 山 市 長 足 立 正 則